

2014年3月期 第2四半期 決算説明会資料

**2013年10月31日
NECキャピタルソリューション株式会社**

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

1) 連結決算ハイライト

【事業環境】

- ・リース取扱高は前年同期比増加
- ・資金調達環境は引続き良好な状況を維持
- ・倒産状況については、件数は前年同期比減少しているものの、負債総額については、低水準ながらも3年ぶりの前年同期比増加

【営業トップライン】

- ・賃貸・割賦事業については、契約実行高、成約高共に前年同期比伸長

＜賃貸・割賦事業＞

契約実行高	: 46.9%増	(小口除く 49.3%増)
成約高	: 34.4%増	(小口除く 35.9%増)

＜営業貸付事業＞

契約実行高	: 8.4%減	(一括ファクタ除く 3.8%減)
成約高	: 8.5%減	(一括ファクタ除く 4.0%減)

【経営成績】

- ・売上高、経常利益及び純利益共に期首予測を上回る

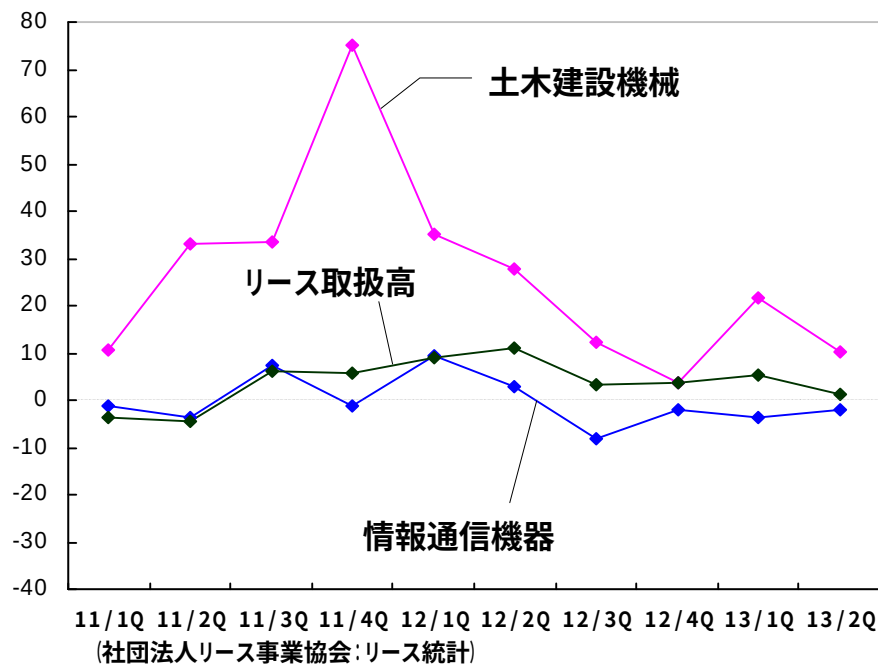
1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

2) 事業環境

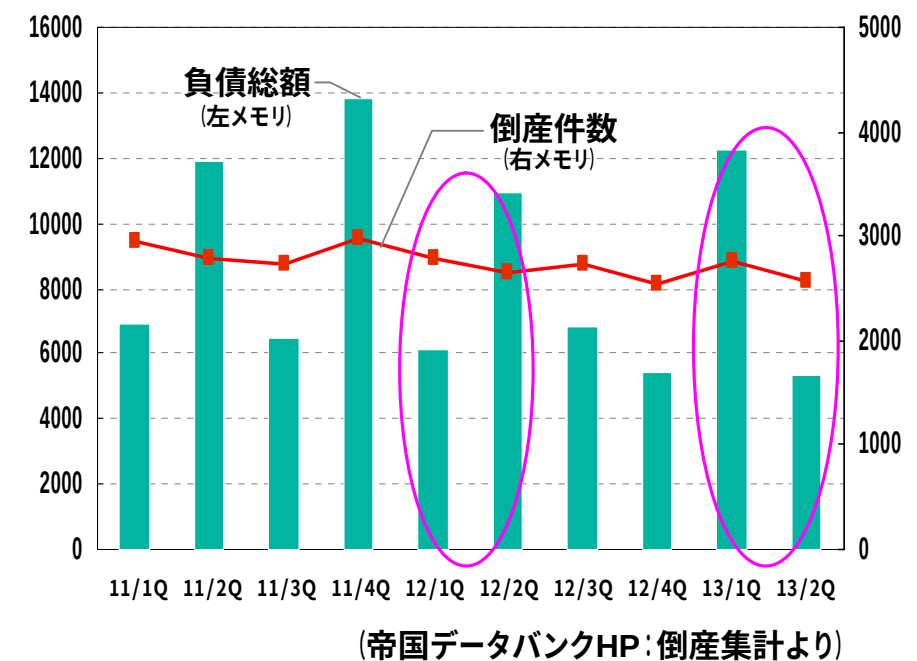
-リース取扱高: 当社の主力である情報通信機器については、前年同期比減少となるも、土木建設機械の好調な推移に加え、産業機械が大幅増加した事により業界全体のリース取扱高は、前年同期比増加

-倒産状況 : 当第2四半期累計における負債総額は、3年ぶりの前年同期比増加
零細企業などを中心に小規模倒産に増加の傾向

リース取扱高の足元の動向 (前年同期比推移)



倒産状況 (負債総額/件数)



1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

3) 業績概要 (連結)

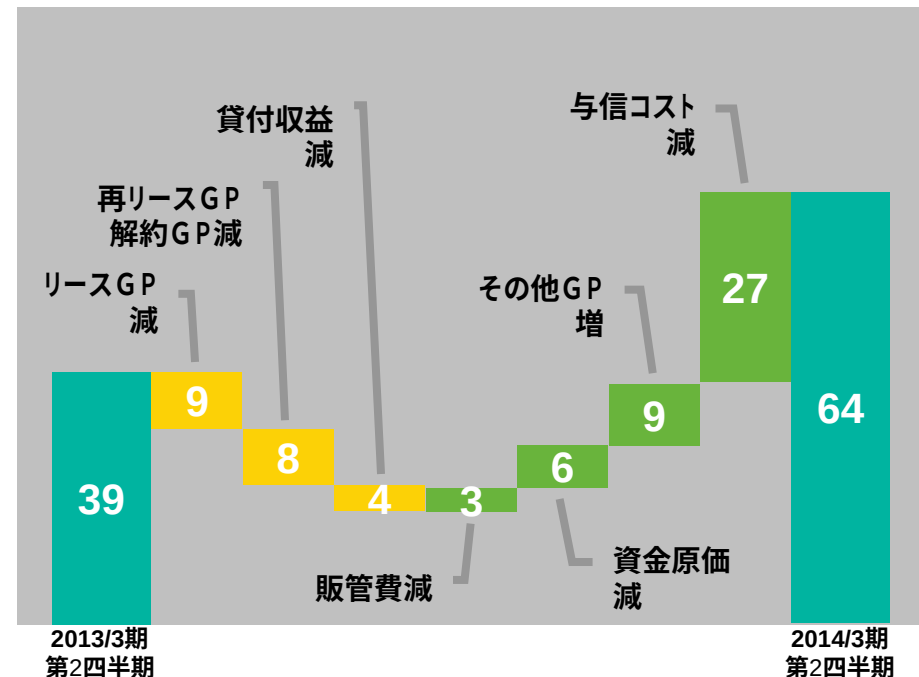
- ・ 売上高 : 売上高は、前期大型の不動産売却売上があった影響で、前年同期比9.2%減
- ・ 経常利益 : アセットの利回り低下に伴い、リースGPが前年同期比減少となったものの、引当先の債権残高減少、及び正常化に伴う貸倒引当金の戻入等により、前年同期比63.3%増
- ・ 自己資本比率 : 8.7% (11/9末) → 8.7% (12/9末) → 9.9% (13/9末)

(単位: 億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
売上高	1,216	1,104	▲9.2%
営業利益	38	61	61.3%
経常利益	39	64	63.3%
四半期純利益	19	25	34.0%
1株当たり四半期純利益	88円01銭	117円91銭	—
営業資産残高	6,516	6,280	▲3.6%
純資産	813	788	▲3.1%
自己資本	657	698	6.3%
自己資本比率 (%)	8.7	9.9	—
1株当たり配当金 (円)	22	22	—

経常利益前年同期比主要増減要因

(単位: 億円)



1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

4) 事業別収益 (連結)

事業別収益

(単位: 億円)

		2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
賃貸・ 割賦事業	売上高	913	912	▲0.1%
	売上総利益	81	73	▲10.3%
	営業利益	62	52	▲16.7%
営業貸付 事業	売上高	22	18	▲20.5%
	売上総利益	19	13	▲33.4%
	営業利益	▲7	13	-
リサ 事業	売上高	216	104	▲51.9%
	売上総利益	19	33	72.7%
	営業利益	1	18	-
その他の 事業	売上高	96	71	▲25.6%
	売上総利益	8	▲4	-
	営業利益	▲3	▲14	-
計	売上高	1,216	1,104	▲9.2%
	売上総利益	120	114	▲4.8%
	営業利益	38	61	61.3%

※ 短信セグメント情報のうち、「調整額」を除いて表示

<<賃貸・割賦事業>>

・売上高は、前年同期比0.1%減。倒産コストが減少したものの、アセットの利回り低下による粗利減少をカバーするには至らず、営業利益は前年同期比16.7%減

<<営業貸付事業>>

・売上高は、前年同期比20.5%減となったものの、倒産コストの減少により、13億円の営業利益を確保

<<リサ事業>>

・前年同期に大型の不動産売却があったこと等により、売上高は前年同期比51.9%減となったものの、ファンドのEXIT等により、18億円の営業利益を確保

<<その他の事業>>

・前年同期に大型の解約売却があったこと等により、売上高は前年同期比25.6%減。また、満了・解約損益の悪化に伴う粗利の減少により、14億円の営業損失

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

5) 事業別契約実行高の状況 (連結)

事業別契約実行高

(単位:億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
賃貸・割賦事業	537	789	46.9%
賃貸事業	522	774	48.1%
割賦販売	15	16	6.3%
営業貸付事業	1,365	1,250	▲8.4%
営業貸付金	810	779	▲3.8%
一括ファクタリング	555	471	▲15.1%
その他の事業	15	14	▲9.0%
計	1,917	2,053	7.1%

事業別成約高

(単位:億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
賃貸・割賦事業	798	1,073	34.4%
賃貸事業	783	1,054	34.7%
割賦販売	15	19	22.1%
営業貸付事業	1,364	1,248	▲8.5%
営業貸付金	809	777	▲4.0%
一括ファクタリング	555	471	▲15.1%
その他の事業	15	13	▲11.5%
計	2,177	2,334	7.2%

《契約実行高》

- ・賃貸・割賦事業においては、各種施策が奏功したことに加え、大口契約を獲得したこともあり、前年同期比46.9%増と大幅な伸長
- ・営業貸付事業については、一括ファクタの落ち込み等もあり、前年同期比8.4%減

《成約高》

- ・賃貸・割賦事業においては、大口契約を獲得したことにより、前年同期比34.4%増と大幅な伸長
- ・営業貸付事業については契約実行高と同様の展開

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

6) 賃貸・割賦事業の営業状況 (連結 小口除く)

業種別契約実行高 (除く小口)

(単位: 億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
官公庁	263	261	▲ 0.9%
民需	265	528	99.1%
サービス業	71	55	▲ 22.9%
流通業	61	97	59.1%
製造業	80	322	300.7%
その他	53	54	2.5%
計	529	789	49.3%
【参考】小口含む計	537	789	46.9%

業種別成約高 (除く小口)

(単位: 億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
官公庁	533	553	3.7%
民需	257	521	102.5%
サービス業	69	55	▲ 19.8%
流通業	73	113	55.4%
製造業	75	273	263.2%
その他	40	79	96.2%
計	790	1,073	35.9%
【参考】小口含む計	798	1,073	34.4%

機種別賃貸事業契約実行高 (除く小口)

(単位: 億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
情報通信機器	409	387	▲ 5.4%
電子計算機及び関連装置	176	184	4.9%
ソフトウェア	206	182	▲ 11.4%
通信機器及び関連装置	27	20	▲ 26.5%
事務用機器	13	25	96.8%
その他機器	107	377	252.2%
計	529	789	49.3%
【参考】小口含む計	537	789	46.9%

- ・業種別の契約実行高は、官公庁が前年並み
一方、民需は、前年大口案件のあったサービス業が
前年割れとなったものの、今期大口案件があった
製造業は前年同期比大幅伸長
- ・全体では、前年同期比46.9%増
- ・成約高についても、概ね契約実行高と同様の展開
- ・全体では、前年同期比34.4%増

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

7) 営業貸付事業の営業状況 (連結) (一括ファクタリングを除く)

契約形態別契約実行高

(単位: 億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
立替・APF・割賦バック	5	33	543.6%
個別ファクタリング	463	379	▲18.3%
診療報酬債権流動化	59	13	▲78.7%
企業融資	206	290	40.7%
その他	76	65	▲15.0%
計	810	779	▲3.8%

業種別契約実行高

(単位: 億円)

	2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
官公庁	2	2	12.6%
民需	808	777	▲3.8%
サービス業	71	33	▲54.1%
流通業	131	69	▲47.0%
製造業	390	408	4.8%
金融業・保険業	71	79	10.9%
不動産業	32	87	170.8%
その他	113	101	▲10.6%
計	810	779	▲3.8%

・契約形態別の契約実行高については、診療報酬や個別ファクタリング等で前年割れとなるものの、企業融資については前年同期比増加となる。営業貸付事業全体では、前年同期比3.8%減

・業種別では、リース取引に結び付く製造業に注力

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

8) リサ事業の営業状況 (営業利益)

(単位: 億円)

		2013/3期 第2四半期	2014/3期 第2四半期	前年同期比
アセットビジネス	売上高	31	51	63.7%
	売上総利益	16	16	1.4%
	営業利益	8	10	37.9%
不動産	売上高	27	10	▲ 61.4%
	売上総利益	3	1	▲ 72.3%
	営業利益	0	▲ 1	-
アドバイザー	売上高	3	3	18.0%
	売上総利益	2	3	47.1%
	営業利益	0	0	-
連結ベース 計	売上高	216	104	▲ 51.9%
	売上総利益	19	33	72.7%
	営業利益	1	18	1,450.6%

※「調整額 (のれん償却費、期ズレ案件他)」は除いて表示

連結ベースでの収益貢献拡大

<<アセットビジネス>>

- ・大型の営業投資有価証券売却や、買取債権回収益の安定的な獲得等により、営業利益は前年同期比大幅増

<<不動産>>

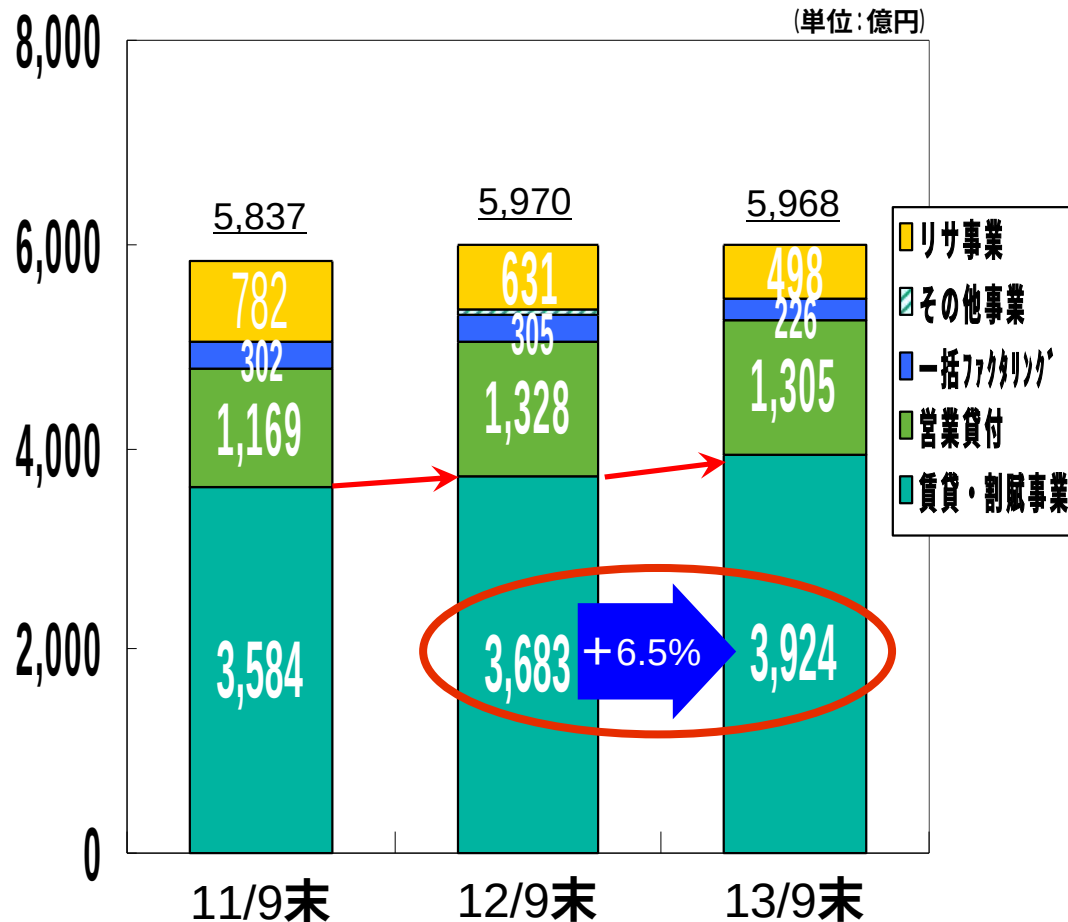
- ・事業撤退に伴う保有不動産の売却売上減少、賃貸料収入減少により減収

<<アドバイザー>>

- ・官民ファンドの収益拡大により前年比増

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

9) 営業資産残高の状況 (連結 小口除く)



<参考>

小口事業残高	767	547	312
小口含む 営業資産残高	6,604	6,516	6,280

<<営業資産残高>>

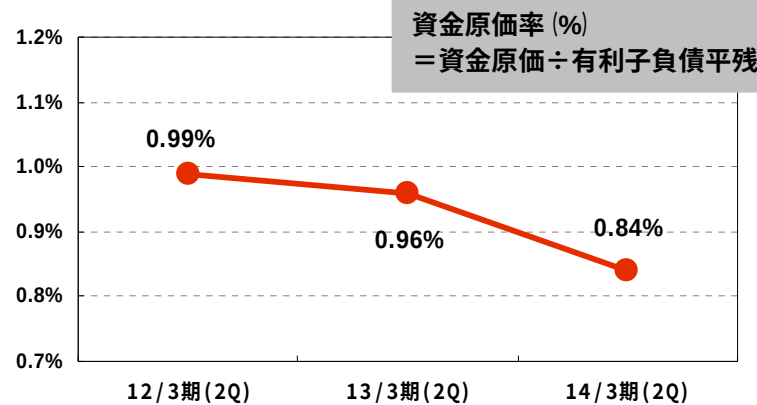
- ・小口事業を除く貸貸・割賦事業は、前年同期末比6.5%の増加
- ・営業貸付は23億円の減少
- ・[リサ事業内訳]
販売用不動産については、事業撤退に向けた取組の結果、減少となっている
営業投資有価証券については、大型の売却等があり、前年同期末比大幅に減少

	12/9末	13/9末	前年増減
販売用不動産	129	104	▲25
営業投資有価証券	114	47	▲67
買取債権	191	170	▲21
投資有価証券	139	94	▲45
営業貸付金	59	84	25
	631	498	▲133

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

10) 資金調達の状況 (連結)

資金原価率

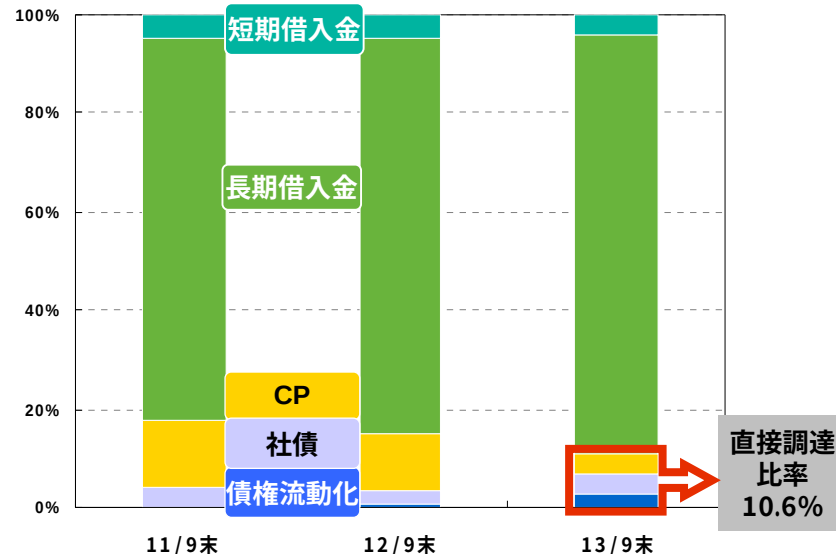


有利子負債残高

(単位: 億円)

	2013/3期		2014/3期		増減
	第2四半期末	構成比	第2四半期末	構成比	
短期借入金	289	4.6%	259	4.4%	▲ 30
長期借入金	5,008	80.3%	4,985	85.0%	▲ 23
CP	750	12.0%	210	3.6%	▲ 540
社債	150	2.4%	250	4.3%	100
債権流動化	42	0.7%	159	2.7%	117
計	6,239	100.0%	5,863	100.0%	▲ 375

有利子負債構成比

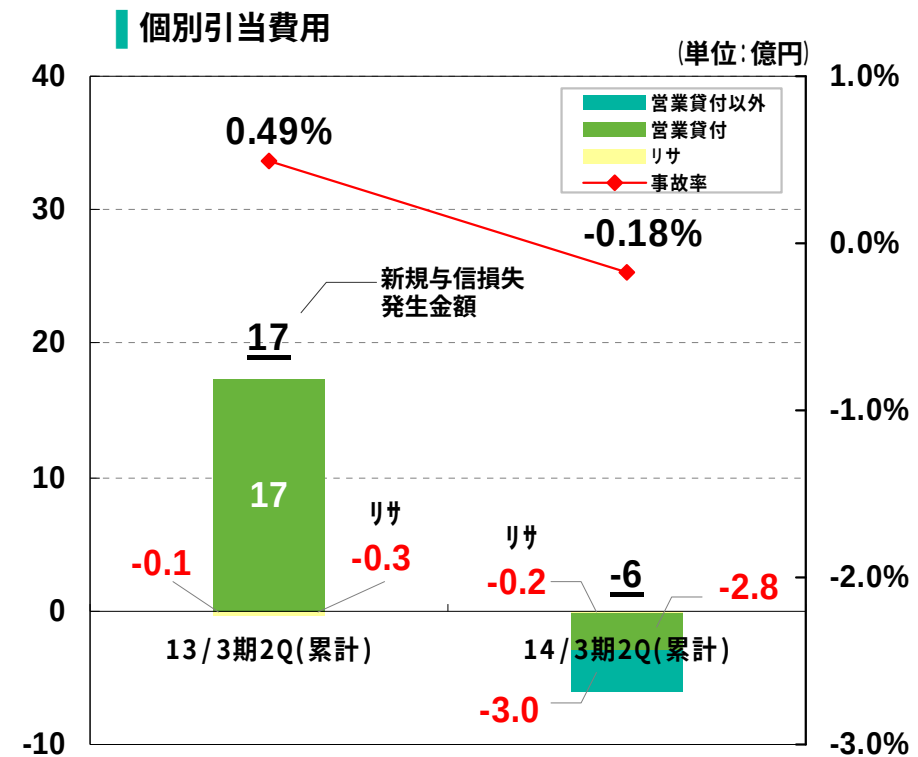
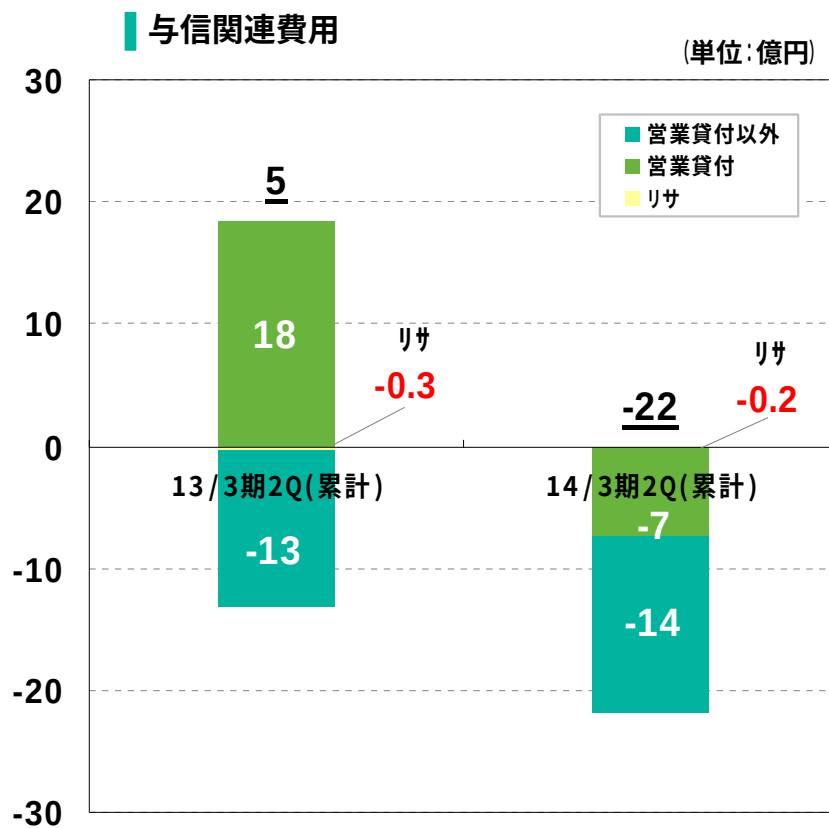


- ・ 連結後の資金原価率は0.84%
⇒前年同期末比0.12%低下
⇒単体における有利子負債平残の低下に加え、グループ資金調達の一元化による、資金効率の改善を図った結果、前年同期比0.12%減となる
- ・ 直接調達比率は低下
(2012/9末 16.0% → 2013/9末 10.6%)
※調達手段の多様化を図るため7月に社債を発行

1. 2014年3月期 第2四半期実績報告

11) 与信関連費用 (連結)

- 与信関連費用は、前年同期比27億円改善(内、一般4億円改善)
- 個別引当費用は、引当先の債権残高減少や正常化に伴う貸倒引当金の戻入等により、23億円減少



2. 2014年3月期計画

1) 連結業績予想

連結業績予想

(単位: 億円)

	実績		予想	
	2013/3期 通期	2014/3期 第2四半期累計	2014/3期 第2四半期累計	2014/3期 通期
売上高	2,292	1,104	1,000	2,100
営業利益	91	61	30	65
経常利益	94	64	30	65
純利益	43	25	15	30
1株当たり純利益 (円)	201円23銭	117円91銭	69円66銭	139円32銭

1株当たり配当金

	第2四半期末	期末	年間
2014/3期予想	22円00銭	22円00銭	44円00銭
2013/3期実績	22円00銭	22円00銭	44円00銭

3. 中期計画2011の進捗状況

1) 各年度の位置づけ

◎ 中期的に目指す姿

「情報・通信技術が拓く新しい社会資本・インフラの実現を先導する企業」

◎ 中期計画2011の基本方針

- キャピタルソリューションの拡充、実践
- NECグループとの関係のさらなる強化
- 新たな事業の創出

2011年度
中期計画実現のための基盤整備実行

2012年度
事業・収益拡大のための具体的活動の展開

2013年度
安定成長を可能とする事業内容・体制の確立

4. 2014年3月期の取り組み

2) 今年度の重点目標と成果

今年度の重点方針については順調に進捗中

既存事業の強化

- 賃貸・割賦事業における契約実行高及び成約高の拡大

新規事業への投資と回収

- 海外事業での案件獲得、パイプラインの拡大

全社横断的販管費の削減

- 各種取組みによる削減と、新システム稼働によるBPR推進

リサ事業の更なる安定化

- 収益貢献拡大

5. NECAPグループビジョンについて

1) 策定背景

当社を取り巻く環境の変化

- リース会計基準の変更、リーマンショック
- リサ・パートナーズのTOB、営業体制の刷新

持続可能な企業に向けた長期経営視点：「ありたい姿」の実現

- 10年後の“自社のありたい姿”（ビジョン）の明確化
- ビジョン実現に向けた持続的な成長・発展

事業を通じたCSR経営からCSV経営

- 社会的価値を事業の一環として提供することにより、全てのステークホルダーが満足する経済的価値の創出（＝CSV経営を目指す）

※CSV (Creating Shared Value) = 共通価値の創造

5. NECAPグループビジョンについて

2) NECAPグループビジョン

**お客様と共に、社会価値向上を目指して、
グローバルに挑戦するサービス・カンパニー**

「社会価値向上」

- お客様と共にCSV経営を行なうことにより、互いの社会価値の向上を目指す

「グローバルに」

- アジア地域を中心に、海外進出するお客様、現地法人に対し、サービス提供を行なう

「サービス・カンパニー」

- お客様の課題解決するために、さらなる高い次元のサービスを生み出せる企業を目指す

※サービス：当社における金融サービス、ICT周辺サービスの総称

5. NECAPグループビジョンについて

3) NECAPグループビジョンの具現化（CSV経営への取組事例）

「環境・復興支援シンジケートローン」の組成

- 第15回グリーン購入大賞 大賞・環境大臣賞をリース業界初受賞

「SMBCヘルスケアホルダー合同会社」設立

- 国内初のヘルスケア専門REIT立上げに向けた準備を開始

官公庁ビジネス

- NECリレーション強化による社会インフラソリューション

ICT機器を通じたLCMサービス提供

- キャピテック、リブート等グループ各社の連携強化

リサ・パートナーズのファンドノウハウの活用

- ポスト円滑化法を捉えた、地域再生ファンド設立

5. NECAPグループビジョンについて

4) NECAPグループビジョン実現に向けて

グループ関係会社の本社一体化に伴い、NECAPグループ各社の更なる連携強化を推進してまいります。

また、10年後のNECAPグループビジョン実現に向けた中期経営計画2014の公表を来春に予定しております。

新本社 (2013年11月5日移転予定)
品川インターシティC棟



本資料に記載されている株主・投資家向け情報は、投資勧誘・保証を目的として作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、ご利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。

本資料に記載されている当社の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。

また、本資料に記載されている経営目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものでもありません。むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、当社の事業領域を取り巻く経済情勢及び規制や法令の変更、潜在的な法的責任、当社のサービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力などがありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

当社による将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因があるため、将来予測に関して記述されていることが実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。

Empowered by Innovation

NEC